ミニシンポジウム 志摩半島周辺海域における二枚貝類養殖の現状

III-1. 伊勢湾におけるアサリ漁業生産の
現状と回復に向けた課題

水野知巳

三重県水産研究所鈴鹿水産研究室

III-1. The Present Condition of the Fishery Production
of Asari clam *Ruditapes philippinarum* and
the Prospects to Recovery in Ise Bay

TOMOMI MIZUNO

Mie Prefecture Fisheries Research Institute Suzuka
Branch, Suzuka, Mie 510-0243, Japan

1. 伊勢湾のアサリ資源の現状

伊勢湾におけるアサリ漁場は、主に三重県と愛知県沿岸の河口干潟や水深5m以浅の浅海域に形成される。操業は、鈴鹿地区では春季のみ、その他の地区では周年行われ、干潟漁場では腰曳シヨレン、潮下帯漁場では長柄シヨレンや貝桁網を用いて漁獲される。漁獲量は、80～90年代半ばには年1万t(40億円)を超えたが、2000年代に入ると3千トン前後に減少し、2010年には過去50年間で最低水準の2,160t(9億円)になった。単価は500～600円/kgと、全国平均の300円/kgと比べ高水準である。¹⁾

資源の減少要因として、1970年には全漁業者の6%未満だった採貝漁業者割合がノリ養殖の衰退に伴って70%以上に増加し、高い漁獲圧力が加えられたことや、底層の貧酸素水塊の拡大に伴う深場漁場の縮小が挙げられる。²⁾ さらに、近年の稚貝場は河口域に形成されることが多く、頻発する集中豪雨に伴う塩分低下や底砂の攪乱で、成貝に育つ前に稚貝が減耗し漁獲につながらなくなった。とりわけ、木曾三川河口の桑名地区、雲出川河口の津地区、宮川河口の伊勢地区では、'04年、'09年、'10年の集中豪雨に伴う大量出水で資源が激減し、'13年現在もほとんど漁獲のない状態が続いている。宮川沖等の浮遊幼生密度も三河湾沿岸域の数万個体/1000Lと比較して、ピークでも数百個体/1000Lと少なく、母貝生息域が各地で激減し、再生産が危機的になっている。²⁾

2. 二枚貝の資源回復へ向けた取り組み

アサリに先んじて、ヤマトシジミやハマグリでは積極的に資源管理が実施されてきた。ヤマトシジミは湾奥部の木曾三川下流域で漁獲され、1980年代の1万tをピークに、汽水域の減少や乱獲で2000年代初めには2

千トンに漁獲が減少した。当初4漁協で行われた漁獲規制が、木曾三川下流部の全12組合に拡大し、'09年には「木曾三川シジミ漁業協議会」が設立された。協議会では、三重県と桑名市と連携した資源調査・漁獲量把握が行われ、その結果から、漁獲量、出漁日規制が決められるようになった。'00年と比べて操業隻数は半減したが、CPUE(1日・1隻当たり漁獲量)は1.5倍に、採算性(1日・1隻当たり漁獲金額)は2倍に増加した。

ハマグリは木曾三川河口域の干潟の消失で1970年代に3千tあった漁獲量は90年代には年1t未満に激減した。赤須賀漁協を中心とした母貝場保護や、国土交通省による消失干潟の再生が行われ、2005年頃から稚貝発生が高水準になり、'07年以降漁獲が百t以上に回復した。'10年頃からは、過去30年近く漁獲がなかった鈴鹿・津地区、松阪・伊勢地区でも5～10トンのハマグリが漁獲され、湾奥からの幼生の供給により湾全域で資源が増加した可能性も考えられる。二枚貝資源の回復には、管理意識の向上、生息域の基盤整備、幼生の供給源の確保が重要である。

漁業者の管理意識向上を目的に、'10年には伊勢湾全域沿海漁協が参加した「三重県アサリ協議会」が設立され、研修会や資源調査が実施されている。水産研究所では「三重県アサリ資源管理マニュアル」を作成し、県漁業調整規則の殻長制限(現行2cm)を引き上げた場合の産卵量を試算できるモデルを開発し、漁業者と資源管理に向けた議論を始めた。²⁾

また、2012年度から県水産基盤整備課により、浮遊幼生供給源となる湾奥部の母貝場整備が開始された。協議会や水産基盤整備課とも連携し、アサリの生息状況を500地点以上の測点でモニタリングし、河口干潟の「稚貝場」で採捕した稚貝を「漁場・母貝場」に移植して資源量を増やす取り組みを水産工学研究所などで行い(水産庁委託事業2012-14年)、海岸にカキ殻粉砕固形物と砂利を入れた網袋を設置してアサリ稚貝を確保する採苗技術や、種苗を殻長35mmサイズまで垂下容器で育てる養殖技術開発を増養殖研究所と行っている(農林水産技術会議2012-14年)。これらの取り組みにより、アサリ生産の再生に寄与したい。

文 献

- 1) 昭和55年～平成22年漁業・養殖業生産統計年報(農林水産省編)。農林水産省、東京。1982～2012。
- 2) 三重県アサリ資源管理マニュアル～伊勢湾のアサリ資源を守り育て活かす～。三重県、津。2010。